

平成19年産りんご適正生産出荷見通し（案）

1 平成19年産りんごの適正生産出荷見通し

(1) 予想生産量	86	万トン程度
(2) 適正生産量	86	万トン
(3) 適正出荷量	77	万トン
ア 生食用出荷量	63.5	万トン
イ 加工原料用出荷量	13.5	万トン
うち果汁用	11.5	万トン

2 生産出荷量が適正生産量及び適正出荷量となるように調整するために必要な措置

(1) 生産又は出荷を行う者及びこれらの者の組織する団体の措置

平成19年産りんごについては、予想生産量は86万トン程度と見込まれ、需要量とほぼ同程度になることが予想される。

このため、本見通しに基づき、全国段階、道県段階、産地段階で生産出荷目標を策定し、以下により計画的な生産出荷に取り組む。

ア 計画的な生産

(7) 適正な着果量を確保するため、摘らい、摘花、摘果等の作業を推進すること。

(イ) 高品質果実の生産に努めること。

イ 計画的な出荷

(7) 出荷品質基準の徹底により、高品質果実の出荷に努めること。

(イ) 加工原料用果実について、長期取引契約による安定的な取引に努めること。

(2) 計画的な生産出荷の実施に資するため、所要の事業を行う。

(参考)

平成19年産りんごの予想生産量及び適正生産出荷量(案)

1 予想生産量

平成19年産りんごの道県の開花状況報告によれば、

- ・結果樹面積は、前年産よりわずかに減少していると見込まれること、
- ・現時点で着花量はほぼ平年並みと見込まれ、高品質果実生産のため摘果が推進されること、

以上から、平成19年産予想生産量は、86万t程度と見込まれる。

2 適正生産出荷量

(1) 需要量

1人当たり純食料の推計値を基に、需要量を86万トン程度と見込む。

① 1人当たり純食料	5.03 kg	
② 人口	127,694 千人	推定人口
③ 純食料	642 千t	①×②
④ 粗食料	755 千t	③÷0.85
⑤ 国内消費仕向量	838 千t	④÷0.90
⑥ 輸出	26 千t	
⑦ 消費仕向量	864 千t	⑤+⑥

※ 1人当たり純食料

平成19年の1人当たりの純食料は、近年(平成16～18年平均)の1人当たり純食料の実績(推計)を基に9.15kgと見込む。また、1人当たりの純食料のうち国産分も同様に5.03kgと見込む。

(2) 適正生産量

(1)の需要量から適正生産量を86万トンと見込む。

(3) 適正出荷量

近年の用途別出荷量比率等を基に以下のとおり見込む。

適正出荷量	77 万t
生食用適正出荷量	63.5 万t
加工原料用適正出荷量	13.5 万t
うち 果汁用	11.5 万t
その他	2 万t
自家消費・腐敗減耗量	9 万t
合計(適正生産量)	86 万t